

わたしたちは、信頼と希望と愛の輪で社会をつなぎます



SSKP

いずみ

No.
165

2012年6月

* 社会福祉法人 泉会 *

法人本部
泉の家〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番23号
☎03(3417)3451(代) ☎03(3417)3463
izumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/izumi/日の出舎
就労日の出舎〒190-0182 西多摩郡日の出町平井3030番
☎042(597)1451(代) ☎042(597)2205
info@hinodesha.org
http://hinodesha.org/グループホーム
いずみ〒197-0825 あきる野市雨間322-12
☎042(550)9083
bwz12948@nifty.com岡本福祉
作業ホーム〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番24号
☎03(3415)3366(代) ☎03(3415)4976
okamoto@izumikai.jp
http://izumikai.jp/okamoto/岡本ホーム
玉堤分場〒158-0087 世田谷区玉堤2丁目3番1号
☎03(5707)9431(代) ☎03(5707)9433
tamatumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/tamatumi/一九七七年十二月三日第三種郵便物認可(毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行)
二〇一二年五月二十二日発行(S S K P 通巻五〇六八号)

三月会とオールデン・ゲート・カルテットによる合同合唱(成城ホールにて)

言葉の重み

理事長 橋向敏治



日本の福祉事業は措置制度のもとで、戦後から長い期間来ましたが、10年前から自己選択・決断・責任の自立支援制度に変わり、費用の自己負担など諸問題が生じました。時間が経過しないうちに再び障がい者総合支援制度に変わります。社会情勢を背景に、福祉社会は混迷度を深めております。利用者が望む、より良い制度に生まれ変わることを期待しております。自分がどんなに正しいと思っても、相手を包み得ないようでは本当の正しさといえないように思います。福祉において貧富は勿論、学歴・健康によっていささかの差別があつてはならない。真実を尽くしお互いに信頼できること、好きなことに挑戦でき、応援し、支え、理解をしてくれる人がいることで人は幸せを感じ、生きる力が湧きます。人に接する時には笑顔の力で平和が生まれると思います。

語られる言葉の軽さ、その責任を取らない昨今の社会は残念です。自分の言葉に責任を持ち実行できないことは言わない様にしたいものです。偽りの無い言葉で信頼される人間関係を築きたいものです。利用者が日々喜んで楽しく活き活きと過ごせる職場・施設でありたいものです。多くのご支援を頂いておりますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

泉の家 事業計画

「結び」

今年度、利用者現員41名で活動を行います。内、4月から利用を開始された方は6名です。多機能事業を新たに開始した3年前は21名でした。徐々にですが、利用される方も増え、活気ある毎日となっています。

今年度は、懸案事項の一つであった、一泊旅行を実施します。日帰り旅行と合わせ、小グループに分かれて3回実施しま

す。また、就労移行の活動場所としてきた喫茶を、就労継続B型の方も一緒に活動することになりました。事業間の交流を行い各事業の良い所を伸ばし、結びつきを強くし、より良い泉の家を目指します。

事業所目標 泉の家の活動を通して、利用されている方々と「みんな」を結びます。

年度目標 事業間を結び、枠にこだわらない活動を積極的にに行います。

日の出舎・就労日の出舎事業計画

「新たな一歩」

関係各位のご支援により新舎屋が完成いたしました。改めてまして御礼申し上げます。新しい決意の下、より一層福祉発展に努め地域の期待に応えられるよう努力してまいります。

待ちに待った二人部屋、障がい者対応の設備、全てが新しくなる中での生活。初めが肝心。初心に帰り初めの二歩を大切に、「豊かな生活」を目指し、個別サービス及び利用者日課の見直しを行います。

次に健康面。この数年で入院、通院が倍増。医療機関及び栄養士等専門職との連携を強化し、また、利用者自身にも自らの健康について気を付けて頂く様支援します。

新制度制定や新建物でのラニングコスト増及び物価増対策として、コスト構造の検証、また、利用者が進んで活動に参加しやすい環境を整え、利用者稼働率と稼働日数増等を目指し、財務基盤の安定を図り、新しい制度の準備をします。

グループホーム いずみ事業計画

「地域生活をエンジョイ」

グループホームいずみは、東京都制度の重度身体障害者グループホームBタイプの事業として行っています。今後、国の福祉制度のグループホーム事業として行つかの検討をします。

利用者の健康管理や金銭管理など、個別目標に沿った自己管理能力の向上に繋がるよう支援します。

地域の行事などに参加し、地域住民の二員として意識した挨拶などの行動を継続できるように支援します。

法人本部

「事業の充実と新しい制度に向けて」

「事業の充実と新しい制度に向けて」次に掲げる課題に取り組み、地域の期待に応え利用者本位のサービスを行います。

①働きがいのある明るい職場を目指し、人財の定着を図ります。

②障がい者制度改革に沿って、各施設の特徴を活かした事業ができるよう進めます。

③各事業所への支援を協力して行います。

④地域の関係機関との連絡調整を図り、ネットワーク作りの一翼を担います。

⑤新制度に関わる情報を収集し、安定した福祉経営と財務の安定化を図ります。

⑥法人リスクマネジメントを立ち上げサービスの質の向上に繋がります。

⑦虐待防止を超えた権利擁護を展開します。

率の向上を目指します。

⑤専門職によるグループ支援を効果的に進めます。

今年も、物作りによる地域との一体化を目指し、地域の活力となるよう進めて参ります。



2012年度 事業計画

岡本ホーム

「重度化対応への取り組み」

岡本福祉作業ホームは、事業所目標に沿って、地域で自分らしい生活が送れるよう支援を行います。また、内部や外部の環境分析を行い目標達成の見通しを立て、課題に取り組みます。今年度は、次に掲げる目標に沿って進めます。

① 利用者の多様なニーズに対応します。特に、加齢に伴う重度化に対するプログラムを継続し取り組みます。

② 権利擁護・人権尊重への取り組みとして、行動規範自己チェックを実施します。

③ リスクマネジメントの充実を目指し、勉強会の参加や災害時対応に取り組みます。

④ ホームページの充実を図るとともに、自立支援協議会を活用し地域との連携を強化します。

⑤ 利用率90%を目指します。

⑥ 研修体制の充実とレベルアップのための仕組みを再構築します。

今年も、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

玉堤分場

「笑顔大切に」

玉堤分場は、利用者の笑顔を大切に、安定した生活が送れるよ

『男声合唱の夕べ』

3月14日（水）、東京成城ロータリークラブいずみ友の会社会福祉法人泉会との共催で開催される成城音楽祭も、今年で3回目を迎えました。当日は天気にも恵まれ、260名の来場者がありました。成城ホールに置いたチラシや世田谷区報での記事を見ての問い合わせが多かったです。チケットを完全予約制にしており、早い段階からチケットがなくなり、事前にお断りした方も何名もいました。今年で3回目のこのコンサートも徐々に地域の方々に受け入れられているのだと感じました。

今回のコンサートは早稲田大学コル・フューゲル・シニアOB会「三月会」と国際



内田会長、橋向理事長から挨拶

第三回 成城音楽祭



会場と一緒に「花」合唱

ト』の皆さんはもちろんですが、チラシの作成や配布など宣伝活動に尽力くださった、ボランティアの方々、地域の方々、後援を頂いた世田谷区にも、この場をお借りしてお礼申し上げます。

そして今後も泉会の経営理念「信頼と希望と愛の輪で社会をつなぐ」に基づき、地域に向けた文化活動に力を入れていきます。

大勢のお客様に
来場いただき、音楽
を楽しむ
と同時に、
泉会の活
動や社会



東京成城ロータリークラブによる募金活動

基督教大学グリークラブ同窓「オールデン・ゲート・カルテット」の皆さんのご協力を得て、『男声合唱の夕べ』と題して2部構成でお送り致しました。「三月会」は、今回なんと44名のメンバーに参加いただき、ピアノ・畑真理さんの演奏に合わせ、壮大な合唱を聴かせてくれました。42名でのハーモニーは迫力があり圧倒されました。特に「地球をセーリング」という楽曲は明るくリズムカルで会場が大海原になり実際にみんなでセーリングしているような「体感を生み出していました」。

「オールデン・ゲート・カルテット」の皆さんは4名構成で、山田耕作作曲の歌やゴスペルを披露。4名が織りなす美しいハーモニーはホールに心地よく響きました。そして最後の曲は「三月会」と「オールデン・ゲート・カルテット」、それに会場の皆と一緒に「花」を合唱し、大盛り上がりの中、盛大な拍手と共に幕を下ろすことが出来ました。



オールデン・ゲート・カルテットによる合唱



三月会による男声合唱

福祉に少しでも興味を持っていただけだ
らと思います。
(河村 律子)

被災地商品売上報告

社会福祉法人泉会では、東日本大震災以降、被災地の福祉施設や義捐金の支援を行ってきました。

2011年3月末に東京都セーブセンタールからの依頼に応え、岩手県に支援物資を運ぶため、職員と車両の提供を行いました。現地に行き津波被害により、施設で作った製品の販売場所が無くなって

しまったことを知らされました。被災された辛い体験をして、それを乗り越えて、やつと作った製品が販売できない厳しい現実です。

障がいのある方々は製品を作る喜びや販売をして人と関わる喜び、お金を得る喜びなど、作業活動を通して多くの喜びがあります。そのことによつて、製品を



被災地製品販売商品

次いで他に東京成城ロータリークラブ早川会長にご挨拶頂き、いずみ友の会内田会長、泉会理事長の橋向より挨拶をさせて頂きました。

また、今回は昨年3月11日の東日本大震災で被災された方々を支援しようと、当日は募金活動や被災地の製品販売を行ない微力ながら協力させて頂きました。

コンサート開始の何時間も前からすでに数名のお客様より被災地の製品を購入して頂き、興味を持っていたとのこと非常にうれしく感じました。お陰をもちまして被災地の製品も泉会の製品もたくさん売ることが出来ました。この機会に限らず、同じ社会福祉に携わる者として継続して協力していきます。

今回事業を快く引き受けてくださった「三月会」、「オールデン・ゲート・カルテット」



東京成城ロータリークラブ早川会長挨拶

作る意欲にもなっています。被災地域で、販売することが難しいのなら、私達が販売すればいいと考え、岩手県の施設で作った製品を買取り、販売しています。また、今回の、第三回成城音楽祭では、被災地支援として、募金活動と被災地製品の販売会を企画実施し、福島県の三春町にある施設の竹炭を使った製品を販売いたしました。



被災地製品販売風景

部屋に飾ったり靴の中に入れたり、用途によつて、それぞれ工夫や思考がされていて好評でした。また、宮城県のおからかりんとうは、毎回好評です。

売上は、42,700円でした。製品の買取り販売の価格としては微力ですが、続けて行くことが大切なことだと考えています。皆様の地域で、この様な販売会などがありましたら、是非ともご協力をお願い申し上げます。

(保坂 俊晴)

泉の家だより

砧公園へお花見

今年度、泉の家の生活介護には2名の新しい利用者の方が増えました。今年度も新しい利用者の方と一緒に様々な場所へ出かけて行きたいと思っています。

年度始めは、毎年恒例のお花見をしに砧公園へ。

4月9日月曜日は、最高気温24度。桜も満開。砧公園内の桜は、車椅子でも手が届くほど立派！

とても暖かい中で、ゆったりと桜を



のんびり桜を観覧中



桜も笑顔も満開♪

眺める事ができました。

土日は、ブルーシートがひけないほど多くの来場者がいるそうですが、泉の家では平日にゆったりといけるので特等席で、桜を見ることが出来ます♪

ブルーシートでは、ごろんとねころがったりそれぞれが思い思いに過ごしました。

公園内には、ソメイヨシノや山桜など約930本もあるそうです。

砧公園は、お花見だけではなく、風揚げをしにいたり、美術館の展覧会を見に行ったりと生活介護の活動には欠かせない場所です。四季折々の季節をこれからも大切にしていきたいと思っています。

（本田 羽瑠香）

玉堤分場だより

事例報告会「玉堤分場からの報告」4つの事例から〜

3月5日（月）に分場初めての事例報告会を開催しました。近隣の施設や病院に案内を出し、助言者に分場の作業療法士でもある「すてっぷナナ」所長の野々垣さんを迎え、7事業所13名の参加があり、雨の降る中、とても熱い報告会となりました。

報告したのは4事例。「高次脳機能障がいとI型糖尿病を持つ利用者への支援」（内田）「失語症の利用者への支援とコミュニケーションの変化」（伊達）「知的障がいの利用者への支援と働く事への意識の変化」世代・障がいの異なる集団の中で」（越川）「離職経験のある自閉傾向の利用者への支援」（上原）です。

利用年数が長い方は、まさに分場の歴史の振り返りでしたし、受け入れに時間をかけた方の変化の過程、初めての特別支援校からの受け入れとなった方、分場だけではなく常に複数機関で



内容の濃い発表会でした

支援した方と多彩な内容でした。助言者から「こうして振り返ってみると、必要とされる支援を組みたてるために様々な取り組みをしてきた事が分かるし、支援に「貫性」があり、ブレのない支援を行ってきた事が分かる。」と頂きました。参加者からも「言わず感想を頂き、意見交換もできました。小さな報告会ですが、大きな達成感を得たと思っています。報告した支援員のみならず、準備からお疲れさまでした。とても質の高い報告会でした！」

（上原 絹代）

日の出舎だより

「第三者評価から」

2011年度の第三者評価は（株）福祉規格総合研究所という評価機関が実施しました。全体の評価講評は次の通りです。

一、日の出舎

- ①特に良いと思われる点
- ②自立生活を支援するための様々な情報提供。
- ③利用者の意向を反映した活動内容の提供。
- ④利用者個々の状況を見極め必要な支援の提供。
- ⑤さらなる改善が求められる点

①中堅職員を育成する組織的な仕組みの構築。

②外出活動や余暇活動のさらなる充実により、利用者が地域で活動できる場の展開を。

③サービスの質の向上のため、多職種間連携の一層の推進を。

二、就労日の出舎

①特に良いと思われる点

- ①木工製品の製造・販売を中心とした利用者が主体となつて活動できるような支援の提供。
- ②個別の支援計画と支援方法マニュアルに則つて提供される個々の利用者に応じた支援。
- ③外部の目を積極的に活用して支援の公平性を確保している。

②さらなる改善が求められる点

①マニュアルをさらに活用できるように「扱いやすさ」という視点を。

②利用者同士の関係作りや職員との信頼関係構築のためのより一層の取組みが望まれる。

③サービスの質の向上のため、多職種間連携の一層の推進を。

2011年度は、利用者の安全を第一に施設建替え工事を無事完了できましたが、他方で、右に指摘の課題も出てきています。既に経営目標に基づいた改善計画を策定しましたが、これに基づいて、多くの方々のご協力の賜物である新たな環境にふさわしいサービス事業をめざし、経営改善に努めてまいります。

（高木 有己）



ペットボトル体操しています

運動プログラムでリフレッシュ！

昨年度より岡本ホームでは、健康的なからだづくりを目的に運動プログラムを開始しました。

前半の20分は、基本運動でストレッチ的要素の高い負荷のあまりからない運動を行っています。いわゆる脂肪を燃やすための「有酸素運動」を行っています。後半の20分では、太りにくい身体作りのため、負荷のかかるペットボトルを使ったいわゆる全体的な筋肉量を増やすための「無酸素運動」を行っています。

岡本ホームだより

それだけでは単調でつまらなくなりがちなので、時々、バランスボールなどを使用し、遊び感覚でも行えるような運動への取り組みも行っています。



ボール投げでウォーミングアップ

一般的に、健康・体力づくりの運動と言えば、激しいスポーツをする必要はなく、年齢や体力水準、健康状態などに応じて無理のない運動を続けることが大切とされます。現在は週1回ですが、ゆくゆくは週3回にして、転倒予防に効果的な足・腰・腹部の筋力アップやバランス能力、歩行能力をも維持・改善していくことができれば良いと考えております。

参加している利用者は全員が真剣で熱心に取り組んでいます。そして、今年度も元気に継続中です。

（田村 義宣）

一九七七年十二月三日第三種郵便物認可（毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行）
二〇一二年五月二十二日発行（SSK P通巻五〇六八号）

自立

（岡本ホーム）

山口くるみさん

山口さんとはご家庭の事情で自立生活することになり、昨年は世田谷区立身体障害者自立体験ホームななまつの自立体験施設を利用していました。ななまつち、ケースワーカー等の支援により、今年の4月からグループホーム「私の家々せつ」で生活することになりました。新しい生活が始まったばかりの山口さんに今の心境を伺いました。

Q 新しいグループホームでの生活はいかがですか？

A 初めてでドキドキしている。どうなるかわからないけど、頑張る。

Q 土日祝日は自宅に帰る生活ですが土日は何をしますか？

A やはりまだ生活に慣れていないのでゆつくり休み疲れをとっている。



仲間との作業はとても楽しい時間です

Q グループホームとななまつちの違うところはありますか？

A 自分の食べたお茶碗を洗うこと。皿洗いを自分でしなくてはいけない事はびつくりした。

Q この1年を通して自宅での暮らしと違うところはありますか？

A 二気に人が増えた。今までは母と2人暮らしだったので、人が増えると落ち着かない。慣れるまで時間がかかった。新しいところも慣れるまで時間がかかると思う。

Q よかったことは何ですか？

A 新しい友達が増えた。メール交換したり。

Q 将来の夢は何ですか？

A 陸上選手のおスカール・レオナルド・カール・ピストリウスの住んでいる南アフリカに暮らしたい。今英語を勉強している。本やCDを聞いて勉強している。

Q 自立生活を考えている人へのメッセージをお願いします。

A 最初のうちは大変だけどだんだん慣れて来るから大丈夫。がんばってね。わからないことがあったら私に聞いてね。

自立生活をする前は休みがちだった山口さんでしたが、生活習慣も改善し、昨年は世田谷246ハーフマラソンの健康マラソンの部に出場したり、今年の3月には初めて1か月休まずに作業所に通所することができました。

今後とななまつち、ワーカー、グループホーム、ヘルパー事業所、医療機関、ご家族、岡本ホーム職員とで山口さんの自立生活の支援を続けていきたいと考えています。

（有馬 恵子）

*オスカール・レオナルド・カール・ピストリウス…南アフリカ共和国のパラリンピック陸上選手。両足義足のスプリンター。

発行所 障害者団体定期刊行物協会 領価五十円
東京都世田谷区砧六の二六の二一
編集人 社会福祉法人 泉会

製品紹介

玉堤分場

4月からクッキーの内容量が変わりました。

ここ数年の小麦粉やバターの値上がり、昨年の震災の影響によるバターの品薄価格高騰により、容量が販売価格を変えざるを得ない状況となりました。

利用者との話し合いの中で、1袋100円という価格は守りたいと思いがまとなり、内容量を変更することになりました。変更は左記の通りです。

- ① プレインクッキー→37g
- ② ミックスクッキー→35g

お客様には大変ご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

